

畦  
徑  
に  
ふ  
き  
の  
と  
う  
萌  
ゆ  
鞍  
掛  
は  
未  
だ  
目  
覚  
め  
の  
気  
配  
を  
見  
せ  
ず  
四  
谷  
小  
山  
志  
ず  
子

## 「ふるさと水と土ふれあい事業」について-計画から現在までの経緯-

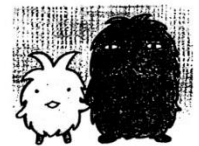
1. 四谷の千枚田の経緯及び地区の営農状況  
千枚田は鞍掛山麓に南面して連なりその様は壮観である。開拓は古く、平安時代承暦時代と推察される。現在 8 百余枚が作付けされ、4 百枚程度が水稻作付けされている。  
平成 9 年に鞍掛山麓千枚田保存会が組織され、後世への伝承が地元の方たちの手で行われている。
  2. 維持管理状況及び問題点  
耕作地及び郷道は耕作者により保全管理を行っているが、高齢化、後継者不足及び現場条件(急傾斜、耕作道が狭い)の悪さにより保全管理に苦慮している。
  3. 地域整備構想(町ごと屋根のない博物館構想)とふるさと水と土ふれあい事業計画の位置付け  
本事業は『町ごと屋根のない博物館構想』のうち、新しい町の魅力創造により、四谷千枚田の維持、保全管理を確保することにより、景観美が展望でき、地域外住民とのふれあいの場を持つことにより地域のいっそうの活性化に質するものと位置付けている。
  4. 本事業の整備内容(総事業費 208,480 千円)
    - (1) 土地改良施設保全事業(132,580 千円)
      - ・耕作道整備(幅 2.5m) 延長 1,400m  
既設の耕作道を利用拡幅した景観道を整備し、農村景観と自然が親しめる潤い空間を創出するとともに、土地改良施設の良好な維持管理保全を確保する。
    - (2) ふれあい保全活動促進施設等整備事業(39,906 千円)
      - ・ふれあい広場整備(650 m<sup>2</sup>) 1 か所  
ふれあい広場を整備することにより、地域住民活動の強化及び都市住民との交流促進を図り、地域の一層の活性化に寄与する。
    - (3) 農地周辺環境整備事業(35,994 千円)
      - ・休憩施設整備(170 m<sup>2</sup>) 3 か所  
景観道散策後の千枚田耕地の景観展望施設を整備。
      - ・水車小屋・ぼっとり小屋整備  
昔ながらの農村風景と農村の歴史を思いださせる施設整備。
- 本事業により、景観路及びふれあい広場を整備した後は、連谷地区における共同活動の一環として、鞍掛山麓千枚田保存会が中心となり、施設の維持保全を行う計画である。また、その際には鳳来町ふるさと農村活性化対策基金の運用益による支援を行うと共に施設の多面的な機能の普及、啓蒙により、土地改良施設を通じた一層の地域参加型社会形成を図ることとする。

工事期間 1 期 平成 13 年 9 月～14 年 3 月 2 期 14 年 9 月～15 年 3 月

事業主体 愛知県新城設楽農林水産事務所

### 千枚田に於ける主な活動状況(近況)

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| ・ふるさと水と土ふれあい事業完成式   | 千枚田保存会          |
| ・ふるさとウォーキング大会       | 連谷公民館           |
| ・こめこめ体験隊            | JA 愛知中央会        |
| ・千枚田餅つき大会(ふれあい広場)   | 田吾作             |
| ・千枚田観察会             | 愛知県自然観察協議会奥三河支部 |
| ・千枚田生き物観察会          | 鳳来町・千枚田保存会      |
| ・千枚田で句会             | 大手門句会(岡崎市)      |
| ・第 11 回全国棚田サミット開催決定 | 鳳来町             |
| ・農水省農村アミニティ(大臣賞受賞)  | 四谷地区            |
| ・千枚田を開こう(米づくり)      | 連谷小学校           |
| ・千枚田復田(稲作初体験グループ)   | 小作人プロジェクトチーム    |
| ・景観整備(広場草刈り、杉木立伐採)  | 千枚田保存会          |
| ・ビオトープ造成            | 千枚田保存会          |



愛・地球博  
AXPO  
2005 AICHI  
JAPAN



棚田サミット  
2005 鳳来町  
四谷千枚田

## 米作り講習会

千枚田保存会では、二月十日、連谷会館に於いて米作り講習会を開催しました。当日は千枚田の耕作者が大勢集まり、講師に「愛知東の営農指導員、町役場農政課の担当者をお招きして千枚田に見合った米づくりについて学びました。

講習会の内容は①「はじめに」現在アジア地域で拡大している鳥インフルエンザや米国がBSE発生国となり、米国産牛肉の輸入禁止措置をとるなど、日本の食事情が危ない。また、水田施策については転作、ハイブリット米、米価について等々②「管内の米の現状」この地方の飯米はミネアサヒ、あさひの夢、あいちのかおり以外は売れない。③「売れる米生産に向けて」美味し米を作るには、千枚田では五月中旬頃の田植

えが望ましい。タンパク質が少ないほうが美味しい。

④「栽培方法」配布した稲作ごよみに基づいて管理する。⑤「四谷の米は？」地元(千枚田)の良さ、潜在能力を知る。地域の活性化につなげる手法。利益を生み出す方法。などのお話がありました。また、耕作者から千枚田の稲作管理について質問があり、適正管理について親切に教えて戴き有意義な講習会となりました。

## 2004年国際コメ年記 シンポジウム開かれる

「オコメ、私たちの命」  
04年は、国際コメ年として、貧困や栄養不足人口の削減に果たすコメの重要な役割について、一般の方々の認識を高めるために、世界各国が取り組む年です。このシンポジウムは農水省、国際食料農業機関日本事務

所、国際コメ年日本委員会が主催で一月二十日に東京(よみうりホール)で開催され、鳳来町も棚田サミット次期開催県として出席しました。

概要は、我が国や開発途上国における、社会、文化、伝統等の面を含め、コメが果たす重要な役割について多くの方々の認識を高めるためのシンポジウムでした。講演 ①コメによる世界の新たな連携を ②世界の米生産：展望と課題 ③山と農を見直す。日本人の底力

## 景観整備余話

第4号で景観整備の情報を流したところ、地域の方や地主の方達から好意的な申し出やご意見が多くありました。

例えば、県道から千枚田全体が見られる最高のロケーションの場である千枚田

入り口付近の杉木立、竹林の伐採について、地主の方から「作業時には手弁当でも駆けつける。千枚田を眺めながらみんなで旨い酒を呑ままいかん」。また、千枚田水車小屋近くの杉木立については千枚田保存のためなら「如何様にも、お任せします」。などの有難い申し出がありました。

意見として、県道に被さる木立の枝打ちについては、地域として取り組んだら、県土木へお願いしたら、などの助言がありました。

## げなげな斬

② 栃の木の行方

明治三十七年、大代集落に甚大な被害をもたらした山崩れの際、倒れた大きな栃の木は沢を塞いで鉄砲水など、新たな災害を起こす恐れがあるため、「上ん平」の今泉良治さんのお祖父さ

ん達が木挽きで挽き割り、何枚もの板を取りました。

その板は「小宿」の丸山一虎さん宅ではコタツ板に、「屋敷」の高橋伸二さん宅では餅ののし板に現在でも使われています。

## 湧き水

▽ 猟期も終わった。

一昨年は千枚田の田圃をイノシシが荒らしまくった。皆んな、田圃を作ってもイノシシに荒らされるのがオチだ、作るだけ「あわん」などとブツブツ言っていたが、それが何と、昨年は千枚田にイノシシが出たとか、荒らされた話はほとんど聞かなかつた。あれほど出没したイノシシはいつたい何処へ行ってしまったのだろうか。

不思議だ… (舜)

発行 平成十六年二月二十日  
鞍掛山麓 千枚田保存会